

令和8年9月

人権一口講座



「断捨離が教えてくれた思いやり」

母が施設に入所したことをきっかけに、実家の断捨離を始めました。長年にわたって積み重ねられてきた品々に向き合う作業は、単なる片付けではなく、家族の思い出や歴史をたどる時間でもあります。

一方で、物を処分するためには、分別や運び出しなど、多くの手間がかかります、処分費用やリサイクル料金など、

思いのほかお金も必要になることを実感しました。

物を所有するということは豊かさである反面、日頃の管理や将来的に処分の負担も伴うのだと改めて感じています。

断捨離を進める中で気づいたのは、物には持ち主の思いや歴史がつまっているということです。

何気なく置かれていた品にも、

その人にとっては大切な意味があるかもしれません。

そのため、一つひとつの物を手に取るたびに、

「なぜ残していたのだろう」「どんな思いがあったのだろう」と考えるようになりました。

こうした経験を通して、相手の立場に立ち、

気持ち想像することの大切さを、改めて感じています。

それは人権を尊重することにも通じるのではないのでしょうか。

人権とは特別な場面だけで意識するものではなく、一人ひとりの思いや生き方を大切にすることから始まるものだからです。

断捨離は、今の私にとって、空間を整えるだけでなく、人を思いやる心の大切さを見つめ直す機会にもなっています。